県立病院ではたらく仲間をつなぐ

病院組合ニュース

2026. 10. 20

No.203

愛知県病院事業庁職員組合
〒453-0016　名古屋市中村区竹橋町36番31号
電話(052)212-8031　FAX(フリーアクセス)0120-930-340
メールアドレス　byoin@aichikenshoku.gr.jp
発行責任者　近　藤　陽　介

職場要求書提出

10月15日、病院事業庁交渉を行い、「令和９年度当初予算計画に関する要求書」を病院事業庁へ提出し、統一要求の趣旨説明、各分会からの個別要求の説明を行い、現場の切実なる願いを病院事業庁へ伝えました。

交渉の最後には、管理課長から「内容は十分に精査して対応する」「人事や財政当局と粘り強く交渉していく」と発言がありました。

統一要求の回答は11月中旬、個別要求の回答は１月下旬の予定です。



細井管理課長（右）に要求書を提出する近藤執行委員長

統一要求

組合アンケートや各分会委員会で出された現場の声を集約し、統一要求で重点的に説明した内容の一部は次のとおりです。

○男性の育児休業等の育児参加環境をより促進させるため、環境を整えること

職員の育児休業取得時に代替職員の補充が十分にされていない状況があるが、男性職員の育児休暇の実績も一定作られている。男性の育児休業による人員不足分をあらかじめ過員として配置するなどの措置を求める。

○特定行為研修修了生の看護師に資格手当を支給すること

モチベーションアップ及び離職防止に繋がるだけでなく、他病院からの転職者に対してアピールとなる。

○部下からの評価について、評価者の人数などを見直すこと

がんセンターの看護師は４百人近く勤務しており、今の要領では１人の被評価者に対して評価者は10人であるため、部下からの評価を行いたいという声がある。

○ＤＸ推進とＡＩ活用をより進め、業務の効率化を図ること

ＤＸ推進には、一般的に普及している者には情報漏洩のリスクもあるため、県公認のＡＩなども考えてほしい。

○年休の取得目標16日を取得できる環境づくりの促進

そもそも、今年度の年休取得目標の16日の周知が、病院によっては十分にされていない状況もある。

○１週間以上の連続休暇が取得できるよう、管理者のマネジメント能力向上も含めた環境づくりの促進

病棟などの変則勤務者はゴールデンウイークや年末年始なども勤務しているため、１週間以上の連続した休暇を希望する声が組合員からある。一部の部署では、本人希望による連続した休暇は、「夏季休暇」や「結婚休暇」しか認めないところもあると聞く。夏季休暇は連続して取得する必要がないため、職員の連続する休暇の希望を踏まえ、夏季休暇取得期間外の連続休暇には連続する年休で対応して、夏季に取得する単発の休暇には年休でなく夏季休暇とするなど連続する休暇が取得しやすい環境づくりを求める。また、１週間以上の連続休暇が取得しにくい理由には、人員配置の影響もある。

○組合に対して経営状況などを随時説明すること

経営改善を行って作った黒字が赤字の補填に使われるくらいならと職員のモチベーションに悪循環を招きかねない事も考えられるため、経営に対する意識を根付かせることは、収益が改善すれば職場環境も改善されるという組合活動に直結するものと考える。

○新がんセンターについては、情報提供を随時行うとともに、職員からの意見や要望を反映させるよう調整すること

がんセンターでは説明会などが実施されているが、今後人事異動でがんセンターに異動する可能性もあるため、病院組合にも適宜情報提供を求める

個別要求

個別要求で、各分会が説明した項目の一部は次のとおりです。

●がんセンター

・外来棟の空調の整備

外来については、ここ数年、夏場に「暑すぎる」との声がよくある。県の機関であるため、大規模な空調の整備には予算措置が必要で時間を要することは理解するが、外来診療では多くの患者さんの待ち時間がある。その待ち時間中が暑いというのは、患者さんにとって身体的にも精神的にも苦痛となりうる。

・看護師の勤務表作成のＡＩソフト導入

師長の管理業務に時間がより使えるようになり、業務効率の向上、公平性の確保、ミスの防止などのメリットが考えられる。

・病理標本デジタル化作業の臨床検査技師の専任配置

年々蓄積する標本の保管スペースの確保が大きな課題となっているため、病理標本のデジタル化をして保管スペースの確保を図る必要がある。

・50歳以上のがんセンター職員に対する、帯状疱疹ワクチン接種

がん患者などの免疫不全患者との接触が想定される医療従事者については、院内感染対策の観点からワクチン接種が推奨されている。

・治験薬管理体制拡充のための増員

・放射線検査体制強化

●精神医療センター

・外来専従精神保健福祉士の１名増員

入院の患者が増えていることもあり、退院後に地域連携室へ相談に来訪される患者が増加している。現在の人員では療養生活継続支援加算（月１回３５０点）を算定まで手が回らない。

・警察ＯＢによるカスタマーハラスメントの研修予算の確保

他の病院事業庁の病院と異なる当院の特徴として、暴力などの問題行動があっても強制退院させるなどを対応しにくい点がある。また、精神のカスハラ研修については、最近ようやくカスハラのマニュアルが作られた状況だが、人事異動で他病院からの異動者は精神病院独特のカスハラの対応に不慣れな人もいる。

・訪問看護用の全公用車にバックカメラ装着

病院の６台の公用車のう５台がバックカメラの搭載がない。複数人での訪問看護では同乗者が後方確認すればよいが、一人で訪問看護することもある。

・地域連携室の出入り口にカードキーの設置

・ＤＣ看護師の過員配置

●小児センター

・手術室の虫の発生対策

手術室の診療材料には数十万円の物もあり、虫が付くと再利用できないため、虫のついた診療材料は、そのまま病院の損となる。

・駐輪場の整理と増設

自転車の置いてある近くは、車いすの患者が通ることもあり危険。

・手術室看護師の定数を30人とすること

今年の配置は25名となってしまった。手術室は、緊急オペがあると勤務間インターバルの関係で、翌日の勤務に影響が出て人がいないことにもなり、人がいないと緊急の受け入れを断ることにもなりうるため、30名の看護師が手術室に必要。

・医療ソーシャルワーカー（正規職員）増員

小児は開設して20年が経過し、成人を迎えた患者もいる。また外国籍や低収入の家庭の必要となる。社会福祉士は、病院では正規が集まりやすい。有期の募集は採用が難しい。社会的ニーズが高い仕事を現状の正規２名と非常勤２名では、病院の役割を果たせない。正規１名増員することによって入退院支援の加算も取れるようになる。

・臨床検査技師の増員

・カーペットの張替え

病院組合交流会＆青年部交流会
「ランチブッフェ」
開催決定!!!
12月上旬～中旬に2日間 開催予定です！
ちょっと早いクリスマス会にどうですか？
会場：コートヤードバイマリオット名古屋「CRUST」
★近日中にTUNAGにて先行してお知らせします